



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692 (住所記入不要)
☎0276-88-5511 (代表)
☎0276-47-5007 (企画課直通)
☎0276-89-0136
URL <http://www.town.ora.gunma.jp>
E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



〈第五十七回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



「夜泣稲荷神社」と聞くと稲荷様が泣くのかなと思うでしょうが、実は子どもの夜泣きを静める東国唯一の珍しい稲荷神社です

夜泣稲荷神社

篠塚西ノ根にある、上武太一さん宅の屋敷西南の隅に、正一位夜泣稲荷神社があります。鳥居には「正一位夜泣稲荷神社」の額が掲げられています。鳥居をくぐって踏み石を進むと、小さい社があります。社にはたくさんのお供えしてあります。夜泣稲荷のご利益については、知る人ぞ知る存在です。

昔、上武家の先祖が京都の伏見稲荷神社に参詣して「子どもの夜泣きで困っている若い親たちのために、子どもの夜泣きを止めさせるご利益を与えていただきたいので、ぜひ分霊を賜りたいのです」とお願いしました。

ところが、なかなかお許しが出ませんでした。そこで、「関東は遠いところで、親たちは京まではなかなか参れませぬ。ぜひ、勧請をお許しください」と懇願しました。こうした熱心な嘆願で、やっとお許しが出ました。

帰郷すると早速、自分の屋敷に社を建て、正一位夜泣稲荷神社をお祭りしました。本社のお許しを受けて夜泣稲荷を勧請したのは関東でただ一社だけだといわれます。それからは、近くから遠くの人まで、口伝えに夜泣稲荷神社は知れ渡りました。

子どもが夜泣きをする時、おんぶして神社に参詣し、神社の小石をお借りして帰り、子どもの枕元に置くと、泣いていた子どもは安らかに眠るようになるという事です。ご利益で夜泣きがやんだなら、借りた小石を倍にしてお返しすればよいそうです。ご利益はてきめん、早い子どもでは、拜んで帰る途中には泣きやんでいってしまうそうです。

上武さんの祖母は「子どもの夜泣き止め祈願成就のお礼はどうしたらよいですか」とよく聞かれたそうです。そんなときは「借りた石を倍にして返し、好意があれば油揚げの四隅を切ってお上げしてはいかがですか。残りの中身はお食べください」と教えたと言います。

油揚げは、お稲荷様の大好物。昔は、油揚げ一枚さえ買えない人が多かったので、気持ちだけで結構だという優しい心をこのようにして話したのでしょう。今なお、篠塚に夜泣稲荷神社があるのを知ってお参りする人が続いています。



社の奥にある小さい社の前には、今もご利益があるといわれる小石が置かれています

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成 10 年 12 月 31 日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



愛の使者
(多々良沼)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶日に日に温かくなり、地面から新たな芽吹きが見られる季節となりました。少し前までは夕方5時を過ぎると真っ暗だった空も、赤く染まる時間が遅くなってきたのを感じます。▶とはいえ、たまに吹く風の冷たさに思わず背中が丸まってしまうのもこの季節。日当たりのいい場所で日向ぼっこをしている猫を見たらうらやましくなります。▶白菜とともに、邑楽の冬の風物詩である白鳥。役場の前で見られた彼らも次々と旅路へ戻って行きました。▶春は出会いと別れの季節。入園・卒園、入学・卒業、入職・退職、出郷・帰郷。慣れ親しんだ舞台を離れ、新たなステージへと進む人たちに、さらなる冒険と幸せが訪れることを願いながら、新しい出会いを心待ちにしている今日この頃です。(栗原)



この広報誌は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。